

# あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.142 2006.1.1

## ❁ 新春を告げる... 松本あめ市



❁ 1月2日は博物館へ行こう!

以下の施設を無料開放します

対象施設

松本市立博物館  
重要文化財旧開智学校  
松本市時計博物館  
松本民芸館

1月2日の開館時間  
午前10時～午後3時



### もくじ

- 誌上博物館◇正月の館 松本あめ市の原点をさぐる..... 2、3
- 博物館のノートから◇旧開智学校と旧岩科学校との姉妹館提携について...4、5
- 博物館TOPICS◇(仮称)アルプス山岳館展示整備アンケート結果の概要について..... 6
- 新市域を歩く④◇奈川地域の博物館と文化財.....7、8
- ガイドコーナーはんでんぼく..... 8

## 正月の飴

松本あめ市の原点をさぐる

### 1 はじめに

「松本あめ市」の由来は、「戦国武将・武田信玄統治下の信州に、上杉謙信から塩が送り届けられたことに感謝して始まった「塩市」が由来とされる祭り」（信濃毎日新聞ホームページ「信州歳時記」より）などと紹介されているのをよく目にします。その塩がいつの頃からか飴に変わったというのです。本当でしょうか。

飴を売る正月の市 - 初市が、松本に限られるならばその説もうなずけますが、各地に飴を売る初市が開かれているところを見ると、この由来説は怪しくなってきました。

そこで本稿では、正月と飴の関係を探ることで、松本あめ市の本当の由来に迫ってみます。

### 2 飴を縁起物とする初市

時計博物館では、松本あめ市実行委員会の協力を得て毎年「あめ市歴史展示」を開催してきています。開館以来この企画展のなかで、秋田県大館市のアメッコ市を皮切りに、新潟県出雲崎町、福島県会津若松市と飴を縁起物とする東日本の初市を紹介してきました。今年はこのシリーズの4回目で、山形初市を紹介します。

#### (1) 山形初市の起源

山形初市の起源は、最上義光が城下町の整備を行った際、市の制定をしたことにさかのぼるといいます。この名残として、山形市の中心部には初市が行われる十日町、七日町をはじめ三日町、六日町、八日町など今も市日を冠した町名が残っています。

初市は、古くから十日町を中心に立ちます。これは十日町の辻に自然石が立



市神跡に建てられた記念碑

ち、これを市神様と呼んで祭っていたためです。この石は城下町の町割り（延文2年（1375）の斯波兼頼のときという説もある）をしたときの要石、すなわち道路元標だともいわれています。松本の牛つなぎ石も“もしや”と思われる話です。

#### (2) 市神様の遷座

明治5年（1872）、往来の邪魔になるからとこの市神様が撤去されました。ところがその運搬をした夫が病気になった（その日のうちに急死したともいう）ため、祟りを恐れて触れる者もなく県庁に放置されていました。そして5年後の同10年、旅籠町の人の手により湯殿山神社に鎮座することとなり今日にいたっています。

市神様のご神体がなくなった後も、初市になると十日町の市神様跡地にも参詣者は絶えず、この間新しく市神様が祭られ、山形の市神様は2体になっています。この新しい市神様は、現在歌懸稻荷神社の境内に遷座されています。

#### (3) 初市の変遷

『山形雑記』（明和4年（1767））に記された江戸時代の初市は、郡内から大勢の参詣者で賑わい、市神様に賽銭を投げ厄払いをする風習（大正以後衰退した）があり、蕪が縁起物として売られていました。明治31年（1898）1月の『風俗画報』第132号の「山形十日市」（佐藤古玩）には「名産紅花染の反物を売たりという。今は廃れてなく白紙飴を盛りたるものを売り捌く」と蕪と並んで旗飴が売られていたことが知られます。



盛飴と白髭の挿絵

また明治35年の『風俗画報』第245号の「山形初市の盛飴及び白髭」（河名文助）には初市の縁起物として盛飴と白髭が挿絵を伴い紹介されています。

昭和13年（1938）の市立山形商業学校による旧正月の「山形初市露店調査」によれば、十日町から六日町にかけて露店数は913軒で3年前の調査の82%に減少しています。そのうち縁起物に関係ある菓子・飴屋が59軒、野菜類を売る店は214軒です。昨年の新暦初市の出店数は十日町北部から七日町の間で約360軒と、昭和13年の半数以下に減少しています。このうち縁起物を扱うのは約100軒だそうです。

#### (4) 山形初市の縁起物

山形初市の縁起物は、蕪、白髭（あさつき）と初飴です。蕪は「株が上がるように」、白髭は「白い髭が

生えるまで長生きするように」と求められ、神棚に供えてから家族でいただくのだそうです。湯殿山神社の市神様は八重事代主命すなわち糸苅す様とされており、この市神様の神紋には蕪が用いられています。湯殿山神社では初市に、蕪1000株と白髭に塩を添えたもの300袋ほどを用意し、参詣者に配っているそうです。かつては「一番蕪」を求めて暗いうちから行列ができたそうです。

初飴は、現在は切飴が一般的ですが、戦前（第2次世界大戦前）までは紅花の花餅をかたどった旗飴（盛飴ともいう）だったといわれています。半紙に点々と飴を垂らし竹の柄を付けたもので、紅花の豊作を祈ったそうです。先の「山形初市露店調査」報告に「盛飴が例年澤山出るのであるが、今回は意外に少なくなったのは初市の意義がだんだん変化してゐるからとも云へる。」と分析されており、この頃から旗飴が少なくなってきたようです。戦前の初市では切飴が1銭、旗飴が5銭したといわれています。現在、旗飴を作っているのは七日町の菓子屋さん1軒だけです。また初飴として切飴を製造するのも、この菓子屋さんと市内の飴屋さん1軒だけになってしまったそうです。

歌懸稲荷神社の市神様は、初市の日に「十日市跡」の碑の前にお出張りになります。そこで参詣者に先着順に300袋の初飴が振舞われるそうです。

### 3 正月に飴を食べる習俗

山形初市の縁起物に、特産の紅花の豊作を祈り旗飴が作られるようになったという話は、山形ではあちこちで聞きましたし本にも書かれています。しかし花餅をかたどるのになぜ飴が用いられたのか、また紅花の生産が衰退した後も初飴が縁起物として残っていることには、意外と目が向けられていませんでした。

アメッコ市の開かれる大館では、「この日アメを食べないとウジ虫になる」「アメを食べると風邪をひかない」と言い伝えられ、飴を食べる日とされてきました。

大館のアメッコ市の起源は、「天正16年（1588）、南部信直・大光寺光愛が長木赤沢、小雪沢から比内に侵入したとき、三戸城主北信愛が与力100人、足軽100人を率いて大館に入城し、大館にはじめて市を設け」たことに由来するといわれています（『大館市史』第2巻）。北信愛は南部一族で、南部氏の支配が及んだ岩手県や青森県には、今も正月に飴を食べる風習を残すところが見られます。特に岩手県には一戸町、浄法寺町、住田町などで小正月を前にして「アメッコ町」と呼ばれる市が立ち、この飴を食べないとウジになるといわれています。また戦国時代に南部領から独立した津軽藩の



湯殿山神社境内の市神と神紋

弘前城下にも「正月11日には何れの菓子商も水飴・棒飴を商ふ。是舊例に因る所。」（『弘藩明治一統誌月令雑報摘要抄』）と伝えられています。

また、同じ岩手県内に水沢市や胆沢町など、子どもたちが元日から飴を売り歩くところもあります。福島県会津地方でも子どもたちによる元日の飴売りが見られ、田島町では「若飴」といい歯固め飴というところもあるそうです。中国南部の荆楚地方の6世紀頃の習俗を記した『荆楚歳時記』には、元日に膠牙飴（とがと）という固い飴をなめて歯固めをする風習があったことが見えます。歯という字には齢の意味があり、歯固めは長寿を願う儀礼だともいいます。

また、岩手県や宮城県の太平洋岸を中心として広く東北地方に、飴餅といって餅に水飴を付けて食べるところがあります。飴は本来水飴から作るもので、水飴は長く伸びることから長寿の縁起物とされるようになりました。その代表が七五三の縁起物として定着している千歳飴です。

### 4 むすび

こうして見て来ると、正月に長寿を願って飴を食べる風習は古く、元旦に飴売りが家を回ったようです。飴売りが来なくなると、ムラでは子どもが飴を売るようになり、マチでは初市で飴が売られるようになったと考えられます。

山形初市の旗飴も初市で売られていた飴と山形特産の紅花の組み合わせとして作られ、山形初市ならではの縁起物となったのでしょう。山形初市の旗飴と松本のあめ市で売られる福飴の由来譚 - どちらも飴屋さんがさらなる売り上げをと知恵を絞ったその土地の初市の産物です。

（時計博物館 学芸員 木下守）

## 旧開智学校と旧岩科学校との姉妹館提携について

### 1 はじめに - 二番目の姉妹館提携です -



写真1 姉妹館提携調印式 深澤進松崎町長(左)菅谷昭松本市長(右)

昨年の11月5日に、重要文化財(以下「重文」と表記する。)旧開智学校校舎の講堂で、重文旧開智学校と静岡県賀茂郡松崎町にある重文旧岩科学校との姉妹館提携調印式が行われました。ご存知のとおり、旧開智学校は昭和62年(1987)に愛媛県宇和町(現西予市)の旧開明学校と姉妹館提携を結んでおり、今回は二番目、いわば旧開智学校にもう一人妹ができて三姉妹になったということでしょうか。この三姉妹、全員が国の重要文化財指定を受けています。

当日、松崎町からは深澤進町長をはじめ6人が来松され、深澤町長と菅谷昭松本市長が提携書に署名捺印し、今後の交流を誓い合いました(写真1)。

### 2 旧岩科学校校舎とは……?

#### (1) 松崎町は旧安曇村と姉妹都市でした

松崎町は伊豆半島の西海岸に位置する町で、北・東・南は天城山系に囲まれ、西は駿河湾に面しています。那賀川等の河川流域に拓けた西海岸最大の平野があり、8,565人(世帯数3,148世帯 いずれも平成17年11月末現在)の皆さんが暮らしを営んでいます。黒潮が押し寄せる海岸線は国の名勝にも指定され、気候が穏やかなこともあり、西海岸の産業・交通・観光の拠点にもなっています。松崎町は「海のみち」、旧安曇村は「山のみち」と違いはありますが、お互いが観光地であることから、昭和56年に姉妹都市提携を結んでいます。新松本市になっても、両町市民の皆さんの交流が続いています。

#### (2) 明治6年の創立・岩科学校

明治維新後、足柄<sup>あしがら</sup>県に属していたこの地、岩科村に学校が創立されたのは明治6年(1873)のことです。校名は「公立小学岩科学校」といい、校舎は天然寺という寺の附属廨院であった天養院の建物を仮借したものであったといえます。現在残る校舎が建てられたのは明治12年から翌13年にかけてのことで、足柄県は静

岡県に併合されています。9月25日に落成式が行われ、校舎は和風の二階建本屋と全面左右に平屋建副舎各一棟がついたものでした。建築費は2,630円66銭3厘、当時静岡県下の一村の事業としては極めて規模が大きく、かつ堅牢な校舎は異彩を放ったといえます。明治初年の学校づくりは地域の人々の熱意が結集された事例が多いようですが、ここ岩科村でも戸長佐藤源吉は新しい時代の教育に期待をかけ、教員の招へいや財源確保に努め、とりわけ新校舎建築には非常に熱心で雄大な構想をもってあたっていい、自らも建築費50円を寄附しています。

校舎正面には「岩科学校」という扁額が掲げられ、これは当時の太政大臣三條実美の筆によるものです。また左官の神様の異名を持つこの地出身の入江長八(文化12年・1815～明治22年・1889)は、佐藤源吉の求めに応じ、二階客室の四周に千羽鶴を、また棚の地袋には山水等の鏝<sup>てい</sup>絵の傑作を残しています。

#### (3) 昭和50年に国の重要文化財に指定

校舎落成以後、校名は村立小学岩科学校をはじめ何度か変わりましたが、連綿と地域に根ざした教育を実践することに変わりはありませんでした。小学校として使用された校舎は、小学校の新校舎建設にともない昭和45年まで中学校校舎としても使用されました。同48年(1973)11月3日は、創立100周年を記念し、校舎2階に郷土室が特設され、岩科教育にかかわる資料が展示されています。

昭和39年に静岡県の文化財に指定された校舎は、11年の時を経た昭和50年6月23日に、文部省告示第103号により国の重要文化財に指定されました。旧岩科学校校舎の重要文化財指定は、全国の学校建築物として15番目の指定にあたります。指定の説明のうち、ここでは「明治初期に建てられた学校のうち、和風要素の多い違例の一つで洋風建築の初期形式を推測させる。入江長八の漆喰鏝<sup>てい</sup>絵が残っていることも貴重である」という一文を皆さんに紹介しておきます。



写真2 重要文化財旧岩科学校校舎

町の、町民の皆さんの大切な宝を後世に伝えようと、旧岩科学校校舎の修理工事に着手したのは平成2年のことです。この工事は、創立当初の形式と以後の造作の変遷が明らかになったこともあり、明治13年の姿に復元をする方針で、国庫補助事業として半解体修理が2か年の歳月をかけて行われました。現在は美しい建築美を誇り（写真2）、年間50,000人前後の皆さんが校舎、長八の鏝絵、教育資料等々を見学しています。

### 3 旧岩科学校と旧開智学校の共通点

この二つの学校、規模等は異なりますが、いくつかの共通点があると思います。

まず、学校の創立がともに明治6年で、古い歴史を有していることです。現存する校舎は、旧岩科学校が明治13年、旧開智学校が明治9年という歴史があります。第二に、校舎建築時の経費の多くが地元住民の寄附金によって賄われていることです。旧岩科学校の場合は約4割、旧開智学校の場合は約7割が住民の寄附にあたります。第三に、明治初期の校舎として文明開化の息吹き - 洋風を摂取した - を感じさせるということです。旧岩科学校は、海鼠壁を取り入れた社寺風建築とバルコニーなどを備え付けた洋風建築による建築です。旧開智学校は、和風と洋風が入り混じった擬洋風建築です。第四に、校舎はともに重要文化財に指定をされ、収蔵の教育資料も極めて貴重であるということです。旧岩科学校は民俗資料も合わせて1,500点、旧開智学校にいたっては90,000点に及ぶ教育資料が収蔵されています。

まだまだ共通点があるかもしれませんが、最後に地域の大切な宝として大切にされ、かつ多くの皆さんに見学していただく両町市を代表する博物館かつ重要文化財である、ということがあげられます。

### 4 今後の交流は……？

現状では、交流の手始めとして両校舎内に姉妹の学校の概要を紹介するコーナーを設けてあります。旧岩科学校では、11月16日に「旧開智学校コーナー」を開設していただきました（写真3）。旧開智学校では、上の妹である「旧開明学校コーナー」の隣りに三女である「旧岩科学校コーナー」を開設しました（写真4）。

さて、姉妹館提携にあたり、次に紹介するような大まかな事業計画を立ててみました。

両重要文化財指定校舎を内外に広く紹介する事業  
校舎をはじめ文化財の保存・利活用と教育資料をはじめとした資料収集・利活用についての事業  
両町市民の皆さん等による相互訪問交流事業

その他博物館活動を通じて両町市民の皆さんの友好親善に適する事業の4項目になります。これらをもとに、具体的なことは松崎町の皆さんや関係の皆さんと相談しながら決めていくことになります。

皆さん、どうかご期待ください。



写真3 旧岩科学校内の「旧開智学校コーナー」



写真4 旧開智学校内の「旧岩科学校コーナー」(左)と「旧開明学校コーナー」(右)

### 5 おわりに - 幅広い連携を視野に交流を -

昨年の11月、文化庁の建造物担当調査官の方が旧開智学校を視察しました。その折りにこの姉妹館提携のことをお話ししたら、重要文化財級で他にこのような事例は寡聞にして知らない、とのことでした。

私たちは幸いなことに、旧開明学校に続き旧岩科学校とも姉妹館の契りを結ぶことができましたが、本当の交流はこれからです。現在、重要文化財指定の学校校舎は20件以上あります。姉妹館を中心に、他の学校校舎とのゆるやかな連携も視野に入れながら、この事業をどのように行えば両町市民の皆さんのために資することができるのか、を考えたいと思います。

皆さんの意見も是非お聞かせください。

(館長補佐・学芸員 窪田雅之)

文献：『重要文化財旧岩科学校校舎修理工事報告書』

平成5年 松崎町

## (仮称)アルプス山岳館展示整備アンケート結果の概要について

### 1 アンケートの実施

(仮称)アルプス山岳館は松本市街の北方、城山丘陵にあるアルプス公園内にあった松本市アルプス山岳館を平成19年5月の開館をめざし、現在改築を進めています。



(仮称)アルプス山岳館の展示設計に先立ち、「岳都松本」とアルプス公園を中心とした身近な自然を紹介する博物館としてどのような展示を皆さんが望んでいるのかを的確に把握するため、平成17年6月から10月にかけて全3回の展示整備アンケートを実施しました。回答数は延べ478件でした。

### 2 アンケートの結果概要

#### (1) 第1回 自然分野の展示に関する質問

##### ア 展示室のイメージについて

70%を超える方から、体験的な用具類が多い展示室が支持されました。展示室の利用イメージを、静的ではなく、積極的・活動的なものととらえていることがわかりました。

##### イ 市民自らの手でつくりだす展示について

70%近くの方が興味を示しています。我々スタッフだけで展示をつくり、運営していくのではなく、市民の皆さんと一緒に展示運営していくことが期待されています。

##### ウ 自然系の展示について

約60%の方から、詳しい解説をともなった展示が支持されました。眺めるだけの展示利用ではなく、知的好奇心を満たす工夫が期待されています。



##### エ 興味のある自然テーマについて

松本の自然・暮らしで興味のあるテーマ。それは「水」と「風習」でした。約50%の方に共通する、興味あるテーマとして回答がありました。松本市の水の特徴を様々な角度から解き明かす展示なども検討していきます。

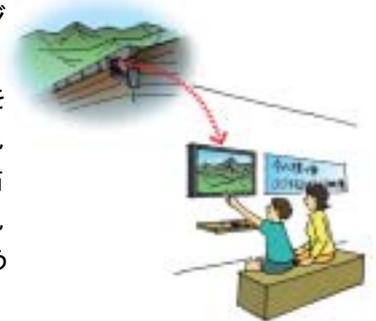
#### (2) 第2回 山岳分野の展示に関する質問

##### ア 松本を代表する山について

松本を代表する山として常念岳をあげた方が40%を占めました。美ヶ原、槍ヶ岳を加えると85%に達します。

##### イ 山に対するイメージについて

山を季節の変化を知らせるものとして見ている方が60%を占めました。山は「見る、眺める」という傾向が強いようです。



##### ウ 興味を感じる展示方法について

インターネットを使ったライブカメラや登山の疑似体験をする装置に興味を感じる意見が多く寄せられました。

##### エ 興味のある山岳に関するテーマについて

山岳の展示で興味のあるテーマ。それは「山の名前」でした。日頃何気なく眺めている山々、その名前を知りたい方が多数いるようです。

#### (3) 第3回 博物館でのボランティア活動に関する質問

##### ア ボランティア活動への興味について

ボランティア活動について興味があると答えた方が80%以上を占めました。皆さんの興味が高いということがわかりました。

##### イ 上記興味のある方のうち、参加したい活動について

企画展示の立案や、展示解説に参加したいという意見が多く寄せられました。

##### ウ ボランティアに参加する方法

学芸員、市担当者など、行政の推進による博物館づくりへの部分的参加が望ましいとする声が半数でした。

##### エ 次世代に伝えたいこと

市民参加型の展示で必要になる暮らしの知恵などの「次世代に伝えたいこと」があるかという問いかけに対し、50%近い方が「ある」と答えました。



### 3 今後の進め方

以上のほかにも、たくさんの貴重なご意見をいただいています。この度のアンケートにお寄せいただいたご意見は展示整備に活かしていきます。なお、アンケート結果概要は市ホームページ上でも掲載しています。

(松本市立博物館 学芸員 小原 稔)

## 奈川地区の博物館と文化財

4月1日の合併で誕生した新市域の博物館と文化財を紹介するこのシリーズ、今回は最終回として市南西部の奈川地区を紹介します。

### 1 奈川地区の概要

奈川地区は梓川の支流である奈川が開析した溪谷にあり、西に乗鞍岳、東に鉢盛山を仰ぐなど、周囲を2,000m以上の山々に取り囲まれています。

地理的にみた地区の中心は寄合渡付近で、ここから西に奈川をさかのぼると野麦峠を経て岐阜県へ、南東に進むと境峠をへて木曽谷へ、奈川を北から北東へと下ると奈川渡で梓川と合流し、梓川溪谷を東へ下れば松本平に至ります。松本城下、伊勢町を起点に奈川を通過する野麦街道は、かつて工女が通った道として、山本茂実原作の映画『あゝ野麦峠』で一躍有名になりました。

行政としての「奈川村」は明治5年(1872)に、誕生しました。江戸時代、ここは木曽の一領域として尾張藩に属し、村制施行以後も木曽とともに西筑摩郡に属していました。昭和23年(1948)南安曇郡への編入を経て今日に至り、今年4月1日には松本市との合併を果たしました。

野麦街道は、かつて、松本・木曽と飛騨・北陸を結ぶ重要な交通路として賑わい、街道が村を支えてきました。松本平では年取り魚に鰯を食べるのが一般的ですが、遠く富山湾で水揚げされた鰯は塩鰯に加工され、途中飛騨高山を中継して野麦街道を通過して松本まで運ばれ、寄合渡からは境峠を経て木曽谷、伊那谷へももたらされました。このことから野麦街道は「鰯街道」とも呼ばれています。

江戸時代、この街道で荷を運ぶ主役は牛で、奈川の牛方による中馬稼業は「尾州岡船」と呼ばれ、尾張藩から交付された鑑札が残されています。また、冬の雪深い峠道での荷運びはもっぱら歩荷とよばれる荷運びの手に委ねられました。天保12年(1841)、野麦峠の頂上に歩荷衆の避難小屋である峠の茶屋「お助け小屋」が建てられ、前年には飛騨高山の商人・大野屋重助が旅人の安全を祈り五輪塔を建てています。



尾州岡船の絵(『奈川村誌歴史編』より)

明治・大正時代には、『あゝ野麦峠』でもクローズアップされた飛騨や越中の工女たちが、岡谷の製糸工場をめざして野麦峠を越えて信州に

入っています。工女や歩荷たちが泊まった宿として、街道沿いには川浦の工女宿「扇屋」、入山の旅籠「松田屋」などが残されています。また、松本市歴史の里(島立)には、川浦にあった工女宿「宝来屋」が移築されています。

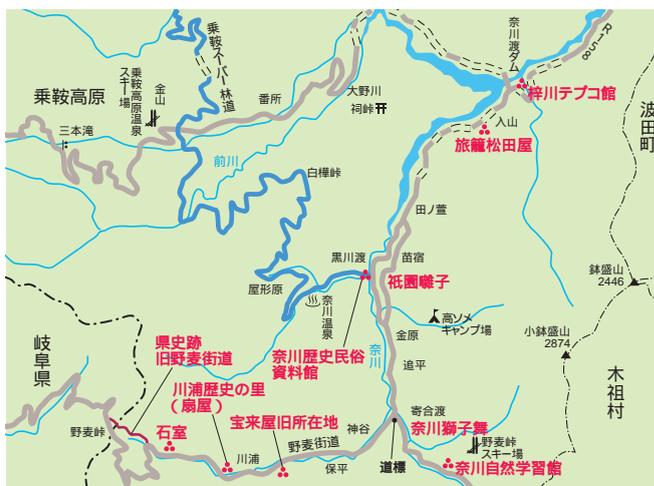
<旧奈川村のデータ(位置・標高は旧役場)>

位置:北緯36°53'・東経137°41'2"

標高:海拔1,013m

旧村花:ゴテンザクラ、ササユリ

旧村木:シラカバ 特産品:ソバ



奈川地区の博物館と旧野麦街道の文化財

### 2 奈川地区の博物館

地区内には展示施設として奈川歴史民俗資料館および奈川自然学習館(松本市立博物館附属施設)、東京電力梓川テブコ館があります。

奈川歴史民俗資料館は黒川渡にあり、地区内出土の考古資料、尾州岡船関連資料ほか歴史・民俗資料など、人々の暮らしを伝える資料が収蔵展示されています。

奈川自然学習館は地元出身の植物学者・奥原弘人氏の収集したコレクションを収蔵保管し、展示室には氏の撮影による植物写真が見やすく展示されています。四季の植物が咲くフロントガーデンや背後のシラカバ林など、自然学習には恰好の環境となっています。



奈川歴史民俗資料館(電話0263-79-2304)



奈川自然学習館(電話0263-79-2770)



県史跡・旧野麦街道



野麦峠頂上付近の五輪塔



石室



旅籠松田屋

野麦街道と周辺の文化財

このほか、区内には先に触れた工女宿「扇屋」や旅籠「松田屋」など旧野麦街道にかかわる文化財も見学施設や体験施設として活用されています。

### 3 奈川地区の文化財

#### 旧野麦街道と関連文化財

鉄道開通以前、松本から飛騨に続く道として最も利用されたのが野麦街道です。年取り魚の鱒や工女らがここを通過したことは先に触れたとおりです。

野麦街道は、頂上付近の旧道が県指定史跡となり、旧景を今に伝えるほか、街道筋には頂上付近の五輪塔、文政8年(1825)に庄屋永嶋藤左衛門によって造られた石室(復元)、寄合渡の道標などが残されています。峠では毎年5月に野麦峠まつりが開催され、工女姿に

扮した子どもたちが頂上をめざして歩きます。

#### 奈川獅子舞

奈川獅子舞は、毎年9月に寄合渡の天宮神社で催される舞で、その昔飛騨の山奥に大獅子がいて家畜に危害を加えたため、天狗が現れ討ち取りますが、また息を吹き返したため、薙刀の名人である村の狩人がとどめを刺すという物語です。



奈川獅子舞(平成13年撮影)

この華やかな姿の舞は昭和43年(1968)に旧村の重要無形文化財に指定され、鱒文化などとともに野麦街道がもたらした上方文化の一端を示すものとして大変貴重な伝統芸能といえるものです。

このほか、区内には重要無形文化財の祇園囃子、天然記念物の柱状節理、御殿桜、しだれ栗、栃の群生林、名勝の林照寺庭園、天狗ノ滝など、旧村指定の文化財が点在しています。

(松本市立博物館 学芸員 竹原 学)

#### ガイドコーナー はんでんぼく

松本市立博物館から ☎32-0133

#### 年中行事シリーズ「小正月」(まゆ玉サービス)

期 日 1/14(土)

時計博物館から ☎36-0969

#### 企画展「松本あめ市展 飴と初市4 - 山形初市」

会 期 1/6(金)~2/5(日)

考古博物館から ☎86-4710

#### 「発掘された松本 2005」

場 所 時計博物館企画展示室(3階)

会 期 2/9(木)~2/16(木)

\*2/11には、松本市遺跡発掘報告会を時計博物館4階の本町ホールで開催(午後1時30分から4時まで)  
入場料 無料(ただし、時計博物館常設展示は有料)

#### あとがき

今年2006年9月21日、100歳になる松本市の博物館。とはいえ悠久の歴史の前にはまだまだヒヨコの身です。新たに踏み出す1年、新たに迎える100年そして1,000年後も、みなさんの暮らしの必需品とさせていただけるよう頑張ります。  
(K.U)

窪田空穂記念館から ☎48-3440

#### 冬季文化講座「冬日ざし」

期 間 1月末から3月上旬

講 師 穂苅甲子男氏(林友会長)  
柴野武夫氏(NHK文化センター講師)  
上條宏之氏(長野県短期大学学長)  
赤澤彰彦氏(芝沢小学校校長)  
川窪裕子氏(アルパ演奏家)  
順不同

資料代 各回 100円

定 員 各回 30人(要申し込み)

松本民芸館から ☎33-1569

#### 企画展「漆器展」

開催中(3/12(日)まで)

あなたと博物館 No.142

発行年月日 平成18年1月1日

編集・発行 松本市立博物館  
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133  
URL : <http://www.city.matsumoto.nagano.jp>  
e-mail : [mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp](mailto:mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp)